

日蓮大聖人御書全集

ひょうえのさかんののにようぼうごしよ

兵衛志殿女房御書

新版
1482

ひょうえのさかんどのものにようぼう(しよ

兵衛志殿女房御書

けんじ ねん

建治3年(77)

がつ にち

3月2日

さい いけがみむねなが

56歳 池上宗長の妻

さきど ぶつき 進

たま そら

たび あま

先度、仏器まいらせさせ給い候いしが、この度、この尼

ごぜんだいじ

おんうま

乗

たま

そうろうよし

うけたまわ

そうろう

ほう

御前大事の御馬にのせさせ給いて候由、承り候。法

過

そうろうおん(こころざし

との

にすぎて候 御志かな。これは、殿はさることにて、

にようぼう

計

女房のはからいか。

むかし

じゆどうぼさつ

もう

ぼさつ

いつくき

れんげ

ごひやく

きんせん

昔、儒童菩薩と申せし菩薩は、五茎の蓮華を五百の金銭

買 取

じようこうぼさつ

しちにちしちやくよう

たま

をもつてかいとり、定光菩薩を七日七夜供養し給いき。

によにん

くい

名

ふたくき

れんげ

みずか

くよう

女人あり、瞿夷となづく。一茎の蓮華をもつて自ら供養し

て云わくい「凡夫ほんぷにてあらん時は、世々とき生々せいぜし、夫婦ふうふとなら

ん。ほとけ 仏ほとけにならん時は、同時ときに仏どうじになるべし」。ほとけ このちかい

朽く 九十一劫くじゅういちこうの間あいだ夫婦ふうふとなる。結句けつく、儒童じゅうどう菩薩ぼさつは

今いまの釈迦しゃか仏ぶつ、昔むかしの瞿夷くゐは今いまの耶輸多羅女やしゆだらにょ、今いま、法華經ほけきようの勸持かんじ

品ほんにして具足ぐそく千万光相せんまんこうそう如来にょらいこれなり。

悉達太子しつたたいし、檀特山だんどくせんに入り給いいしには、金泥駒こんでいこま、帝釈たいしやくの化身けしん。

摩騰迦まとうが・竺法蘭じくほうらんの經きようを漢土かんどに渡せしには、十羅刹じゅうらせつ、化して

白馬はくばとなり給たもう。この馬うまも法華經ほけきようの道どうなれば、百二十年御ひやくにじゅうねんおん

さかえの後のち、靈山淨土りようぜんじょうどへ乗り給のうべき御馬おんうまなり。恐々きょうきょう

きんげん
謹言。

けんじさんねんひのとうしさんがつふつか
建治三年丁丑三月二日

ひょうえのさかんののにようぼう

兵衛志殿女房

にちれん
日蓮

かおう
花押